



第五回秋田県消防操法大会

県代表は大潟村消防団



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

第五回秋田県消防操法大会は九月一日(土)、秋田県消防学校放水訓練場(由利本荘市岩城)において行われました。

横手市十文字消防団柿崎孝一副団長の総指揮により選手が入場、引き続き開会式が行われ、前回大会の優勝団から優勝旗が返還された後、堀井啓一秋田県副知事並びに中田潤秋田県消防協会長が主催者のあいさつを述べました。

また、多数のご来賓を代表して、秋田県議会議長鶴田有司様からご祝辞をいただきました。

小松弘樹秋田県消防学校長から審査長指示があり、男鹿潟上南秋支部大潟村消防団吉原忍班長が選手宣誓を行いました。

県内九支部の予選を勝ち抜いたポンプ車操法の部に七分団、小型ポンプ操法の部に九分団、また、軽可搬ポンプ操法の部には、四隊が出場し、日

ごろの訓練の成果を競いました。

午前中に行われた、小型ポンプ操法の部では、美郷町消防団第二分団が、前回大会に引き続き優勝したほか、軽可搬ポンプ操法の部では、昨年の覇者潟上市女性消防隊の成績を上回った、秋田市女性消防隊が優勝を勝ち取り、来年度開催する全国大会の切符を手に入れました。

また、午後から行われたポンプ車操法の部においては、大潟村消防団第三分団が優勝に輝き、県代表となりました。

競技の結果(優秀選手賞を含む)は別記のとおりとなっております。



美郷町消防団第二分団



秋田市女性消防隊



大潟村消防団第三分団

平成三十年度全国統一防火標語

忘れてない？ サイフにスマホに 火の確認

平成三十年秋の火災予防運動

— 一月四日(日) — 十一月一〇日(土)

第55回秋田県消防操法大会成績表

【小型ポンプ操法の部】

順位	出場団名	タイム(秒)	総得点(点)
優勝	美郷町消防団第2分団	42.78	93.0
第2位	小坂町消防団第4分団	42.76	91.0
第3位	三種町消防団第5分団	43.31	89.5
優秀賞	横手市十文字消防団第3分団	44.37	89.0
	東成瀬村消防団第3分団	45.02	88.0
	井川町消防団第2分団	43.47	85.5
	秋田市消防団河辺第1分団	46.99	83.5
	大館市消防団第1方面隊	45.68	80.5
	由利本荘市消防団鳥海分団	45.76	79.5

【ポンプ車操法の部】

順位	出場団名	タイム(秒)		総得点(点)
		第1線	第2線	
優勝	大潟村消防団第3分団	54.64	64.87	180.5
第2位	鹿角市消防団第5分団	54.47	66.28	178.5
第3位	三種町消防団第1分団	53.65	66.65	172.5
優秀賞	秋田市消防団保戸野分団	59.76	71.43	170.5
	横手市十文字消防団第3分団	57.29	72.48	164.0
	にかほ市消防団第3分団	56.24	67.95	161.0
	北秋田市消防団第10分団	60.34	72.43	144.0

【軽可搬ポンプ操法の部】

順位	出場隊名	タイム(秒)	総得点(点)
優勝	秋田市女性消防隊	58.63	85.0
	潟上市女性消防隊	58.28	82.5
	横手市山内女性消防隊	60.16	80.5
	大仙市女性消防隊	59.20	80.0

【優秀選手賞】

区分	小型ポンプ操法		ポンプ車操法		軽可搬ポンプ操法	
	出場団名	氏名	出場団名	氏名	出場隊名	氏名
指揮者	小坂町消防団第4分団	亀田 憲人	秋田市消防団保戸野分団	柴田 力	横手市山内女性消防隊	木村 節子
1番員	三種町消防団第5分団	田村 悠人	大潟村消防団第3分団	佐藤 真悟	潟上市女性消防隊	小野 千歳
2番員	横手市十文字消防団第3分団	高橋 和稔	三種町消防団第1分団	國柄 清樹	横手市山内女性消防隊	高橋 恵美
3番員	東成瀬村消防団第3分団	鈴木 健二	鹿角市消防団第5分団	安保 崇司	秋田市女性消防隊	木村 綾子
4番員			秋田市消防団保戸野分団	佐藤 聖仁	潟上市女性消防隊	安田さおり

■総 合
 本大会の「ポンプ車の部」と「軽可搬ポンプの部」は全国大会の予選を兼ねており、白熱した競技が展開された。
 昨年度の課題であったホースラインの蛇行は多くの隊で改善され、結

競技審査の講評

◎大会審査班長

秋田県消防学校 榊田 和則

果操作タイムの短縮に繋がっていた。規律、動作も昨年度よりレベルが上ががり、日頃の練習の成果が出ていたと感じた。一方で、ノズルの操作要領不適や規定外圧力送水がまだあり、さらなる訓練が必要と考え

■ポンプ車操法の部

規定外圧力送水が複数隊あった。送水圧力は計器をしっかりと確認してほしい。二番員と四番員のさらなるレベルアップが必要と感じた。

■小型ポンプ操法の部

タイムは全体的に速くなり、特に上位は僅差であった。個々の動作をさらに確実にすることを目標に訓練してもらいたい。一番員の動作が要であると感じた。

■軽可搬ポンプ操法の部

昨年度から男性と同じ標的となったが、すべて有効注水で標的を倒した。確実な動作に加え、スピードアップを目標に訓練してもらいたい。二番員の動作が要であると感じた。

優秀選手の紹介

■小型ポンプ操法

指揮者 亀田 憲人



1番員 田村 悠人



2番員 高橋 和稔



3番員 鈴木 健二



■ポンプ車操法

指揮者 柴田 力



1番員 佐藤 真悟



2番員 國柄 清樹



3番員 安保 崇司



4番員 佐藤 聖仁



■ 軽可搬ポンプ操作
指揮者

木村 節子



一番員

小野 千歳



二番員

高橋 恵美



三番員

木村 綾子



四番員

安田さおり



全国消防殉職者慰霊祭
(公財)日本消防協会

第三七回全国消防殉職者慰霊祭は、九月一三日(木)午前一〇時から日本消防会館二ツシヨールホール(東京都港区虎ノ門)で行われ、秋本敏文日本消防協会長の式辞に続き、内閣総理大臣(代理)、野田総務大臣らが追悼の言葉を述べられました。

全国の殉職者数は、新たに合祀された六柱を加え五、七五七柱となりました。



御霊の奉納

■ 本県から出席したご遺族

殉職者氏名	栗山 富雄	遺族氏名	栗山 克雄
	安 強		栗山 尚子
	安 久仁夫		安 久仁夫



ご遺族と中田会長

秋 田 県
消 防 学 校

初任教育第七二期修了式

五四名修了第一線での活躍を期待

秋田県消防学校第七二期初任教育の修了式が九月一九日(水)、同校の屋内訓練場で修了生のご家族やご来賓約二〇〇名が出席して行われました。五四名の修了生は、六ヶ月間の厳しい訓練を乗り越え、明日からその所属消防本部に着任し、消防士として活動することになります。

修了式は、小松学校長が修了生一人ひとりに修了証書と成績優秀者に表彰状を授与した後、秋田県知事あいさつ(鶴田秋田県総務部次長代読)来賓祝辞(鈴木秋田県消防長会副会長・中田秋田県消防協会長)と続き、修了生が答辞を述べ、最後に校歌を斉唱して終えました。

表彰状授与

■ 優 秀 賞 (二名)

能代山本広域市町村圏組合消防本部

横手市消防本部

大山大之亮

小松田翔太

■ 功 勞 賞 (五名)

能代山本広域市町村圏組合消防本部

湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部

横手市消防本部

秋田市消防本部

秋田市消防本部

若狭 芳明

佐藤惣太郎

菅野 哲也

佐々木秀仁

簾内 翔

学校長式辞 (要約)



秋田県消防学校
学校長
小松 弘樹

皆さんはこの半年間、志を同じくする仲間と寝食をともにし、夢を語り合い、友情を深めて、苦楽を分かち合ってきました。

時にはライバルとして切磋琢磨し、時には仲間として支え合った第七二期生五四名の仲間との信頼と友情は、皆さんの成長に大きな役割を果たしたと思います。

この絆はこれからの消防人生において大きな財産となります。どうか生涯、大切にしていきたいと思っています。

各消防本部では、皆さんの若い力に大いに期待しています。そして同じように地域の住民が皆さんを頼りにしているはずで、初心を忘れずに、信念を持って職責を果たしてください。

結びに、皆さんの半年間の努力に、深い敬意を表します。本当にご苦勞様でした。どうか健康や事故に注意され、充実した消防人生を歩んでください。
皆さんの今後の健闘を心から祈念申し上げ、式辞といたします。

修了生答辞 (要約)



能代山本広域市町村圏組合消防本部
消防士
若狭 芳明

春、夏、秋と季節も移り変わり、いよいよこの消防学校を巣立ち、現場で活躍する 때가 きました。

近年、地震や異常気象による大雨、土砂災害など各種災害による悲惨なニュースは後を絶ちません。こうした中で、私たちは地域住民の安心安全を守り、困っている人を助けたいという初心と使命感を忘れず、消防業務に尽力して参ります。

この半年間、この消防学校で培ったことを胸に、各地域そして秋田県消防の更なる発展に資することを誓い、答辞といたします。



期 72 期
初 任 教 育
半年間を
振り返って
秋田県消防学校

秋田市消防本部 鎌田 雄大

四月九日に入校して早くも半年が経ちました。右も左も分からないところからのスタートで生活スタイルも本当に大変でした。

今ではこの生活が当たり前になったと感じています。自分が生きてきた二四年間で最も充実した半年間だったと思います。

秋田市消防本部 加藤 猛

半年前、自分は卒業する頃にはもっと消防士らしくなるものだと思っていました。しかし実際は想像していたものに到底及びませんでした。ここからがスタートなのだと思えて実感しました。自分の理想に追いつくため、己に打ち勝ち日々努力していきたいです。

大館市消防本部 榎 拓朗

消防学校で過ごした半年間は、自分を大きく成長させることができた素晴らしい期間だった。

座学や訓練、体力錬成、通常点検など厳しいことが多かったが、仲間のお陰で乗り越えることができた。これからも七二期の絆を大切にしていきたい。

北秋田市消防本部 小林 奎斗

入寮当時は何も分からず一日一日大変でしたが、訓練等を通して消防士として必要なことを学ぶことができました。

優しく、厳しく丁寧に教えていただいた教官の方々に感謝し、目標の消防士になれるよう頑張りたいです。

由利本荘市消防本部 佐藤 迅

たくさんの方々の支えがあり、今日までくることができたと思えて実感している。

七二期の同期、学校のスタッフ、所属の先輩方、家族に支えられ消防人として大きく成長できた半年間であった。

にかほ市消防本部 三浦 佑斗

入校時は、頭髪、眉毛、服装を厳しく指導され、通常点検や訓練礼式は苦勞しました。半年間の体力錬成、訓練を乗り越えられたのは仲間と教官、講師のお陰だと思います。所属に戻っても、消防学校で学んだ事を思い出し、頑張っていきます。

横手市消防本部 熊谷 一真

最初は何も分からずに入校し、団体での生活や活動がとて難しかったです。バラバラだった集団が山形県との交流を機に一丸となりました。校長査閲では最高の査閲ができたと思います。ありがとうございます。

鹿角広域消防本部 佐々木卓人

この半年間で、消防士としての基礎的な知識と技術を身に付けることができました。また、公務員としての生活の仕方や集団生活の難しさを学んだ。これまで学んだことを、消防人生に生かしていきたい。

能代山本広域消防本部 菊池 雄大

この半年間を振り返ると、行事や寮生活での楽しい思い出、訓練などの苦しい思い出、どちらも今となっては、とても良い仲間達がいたからこそ感じる事ができたと思う。大切な思い出を今後の消防人生に生かしていきたい。

湖東地区消防本部 武田 寛晃

この半年間を七二期と共に過ごした日々は、私の消防人生において大きな財産となった。日々の訓練で身に付けた、知識や技術を所属に戻ってから更に高め、地域住民が安心安全に生活できるよう努力したい。

男鹿地区消防本部 菅原 翼

和衷協同のスローガンのもと、仲間との共同生活、訓練を乗り越えてきたことが印象に残っています。仲間の支えもあり、とても充実した生活を送ることができました。所属でも、チームワークを大切に頑張っていきたいです。

大曲仙北広域消防本部 山崎 祐太

半年間を振り返ると、入校時には心身ともに未熟であった私が、座学や訓練を通して消防人らしく成長したと思う。全ての基本となる知識や技術を学んだため、それらを配属先で活用して頑張りたい。

大曲仙北広域消防本部 戸嶋 大夢

緊張と不安で全く眠れなかった四月から消防学校での半年間の生活が始まりました。訓練や座学、効果測定など覚えることが多く、余裕は全くありませんでした。しかし、校長査閲では半年間の集大成を見せることができて良かったです。

大曲仙北広域消防本部 安藤 啓斗

初任教育で学ぶ半年間が終わり、入学した時は右も左も分からなかったが、毎日の座学や訓練を通して、今では考えて行動できるようになった。さらに、良い仲間ができたので、この関係を大切にしていきたい。

湯沢雄勝広域消防本部 古谷 優樹

この半年間は今までの人生の中で一番濃い期間だったと感じています。辛いこともたくさんありましたが、教官方が最後まで厳しく指導してくれたからこそ、気持ちを切り替えずに頑張ることができたと思います。いよいよ長い消防人生がスタートしますが、精一杯職務に励んでいきます。

第14回 消防団員 意見発表会(三)



玉尾 宏樹

・秋田市消防団 班長
・勤続八年
・会社員

支部の操法大会では指揮者部門で最優秀選手賞を受賞するなど、コツコツと準備して結果を出す努力家の一面もあります。

「灼熱の大火災を振り返って」

〜心とモノの備えを大切に〜

八年前、現在の住居に引っ越してきた私は、知人からの誘いを受けて消防団に入りました。入団して四年が経ちましたが、火災に出動しても誤報だったり鎮火していたりと、災害の経験がほとんどないまま年月は過ぎ、私は班長を拝命していました

が、消防団の活動は現場の後片付けや鎮火後の警戒ぐらいで、それほど知識も技術もいらないだろうと思っておりました。

しかし、思いもよらないことは本当にあるものです。そのときは突然にやってきました。

それはたまたま休暇を取っていた日でした。春の火災予防運動が始ま

り、広報に出発する団員を見送ると、近所の消防署からサイレンが聞こえてきました。管内の工場で火災が発生したとのこと。直ぐ団員に集合をかけ、私も法被から活動服に着替えて火災現場へ向かいました。

時刻は夕方六時半、目指す工場の方角を見ると、夕映えの空に黒い煙がもうもうと立ち上がり、これまで自分が経験した現場とはまるで違う雰囲気に緊張が走りました。

現場に到着すると、大きな工場の全面から炎が吹き出し、消防署員が懸命に放水をしています。私たちは先ず消防署のポンプ車に給水する任務を命じられました。消火栓が使えず、運河から給水することにしましたが、水面まで吸管一本で届きそうにありません。柵を越え、水面近くにポンプを下ろし、資機材を手渡ししてようやくポンプ車にホースをつなぎました。

ポンプ車から一線延長して工場に入ろうとすると、足下にたまった水はお湯のように熱く、天井からはボキボキという音がします。炎と熱で鉄骨が伸び、ボルトが折れたのではないかと恐怖を感じました。積み上げられた合板の山に何度も繰り返し放水しましたが、燃えさかる炎の勢いはいつこうに衰えません。

ポンプ側でも問題が発生しました。可搬ポンプは燃費が悪く、二時間でガス欠になります。そこで、別働隊

が携行缶を持って消防署に行き、補給しながらの活動となりました。

また、急にポンプが左右に暴れ始めることもありました。高圧送水の連続が原因で故障したようです。後で知りましたが、長時間送水する場合、圧力調整や休憩が必要だったようです。危険だと判断してポンプを停止し、最後まで動いていたのは一台だけでした。

気がつくくと、東の空が明るくなり、朝になって消防団に撤収の指示がありました。帰宅して仮眠を取りましたが、目が覚めると全身が筋肉痛で歩くのもやっとでした。気を張っていて気づきませんでした。体を酷使していたようです。分団長をはじめ、火災のため仕事を休んだ団員の多くは、同僚から労いの言葉をかけていただいたそうです。消防団の活動を理解し、応援してくれる家族と職場の皆さんに感謝しています。

火災から数日が経ち、疑問に思ったことを分団の先輩に尋ねたところ、「消防団員実務必携」という本を教えてくださいました。非常に分かりやすい教本で、何度も図書館から借りては読み、重要な部分は置場に掲示しました。その成果もあって、翌年に発生した工場火災では、スムーズにポンプを運用することができました。

この火災でうまくいかないことや、怖い思いをたくさんしました。が、誰もケガをすることもなく活動

を終えられたことが、何よりも大切だと思えます。この経験を若い団員に語り伝え、常日ごろから心とモノの準備をしておくことができる消防団でありたいと思います。

誰一人欠けることなく、家族が待つ家に帰るために。



堀 嘉哉

由利本荘市消防団
副分団長
勤続二十一年
会社員

災害現場では常に本部長として団員を統率し、被害の拡大防止や避難の呼びかけ等のため、昼夜を問わず活動しています。

「消防活動に思うこと」

世間一般的と言って良いのか分かりませんが、消防団は何とはなく面倒な活動が多い団体と思われているのではないのでしょうか。そういう私も、多少面倒だなと思っている部分があります。しかし、そうは言っても誰かがやらなければならぬものだと思はれています。

私が消防団に入団したのは、三〇歳を過ぎてからのことでした。その歳を聞くと大方の人は、嫌々入団したのだろうという感覚をお持ちになるかと思いますが、実はそういう訳

ではありません。

私の父も消防団員でした。部長の階級まで努めた人でしたが、残念ながら一身上の都合により退団してしまいました。その時私は、ちょうど高校を卒業した頃でした。

その後、自宅には私を勧誘するために、消防団幹部の方が来ていたことを何となく覚えていきます。しかし、父は「ウチの倅は消防に入れん」と、何故か門前払いしていたようです。個人的には消防団活動をしたいというか、するべきというか、私がやらなきゃという意識を持っていただけに、その当時の父の対応を、残念に思っていました。しかし、今では良き理解者でいてくれます。

私が入団する直前の我が消防団は、操法要員ギリギリの人数で運営されておりました。そんな厳しい状態の中で、私も含めた九人が同時に入団したことで、一気に欠員なしの消防団になりました。当時私は一番の若輩者でした。

九人の構成はといいますと、青年会の構成員そのもので、消防活動以前から仲良くしていた仲間でした。

入団してからというもの、青年会活動以上に交流を深め、普段は見ることのない姿や行動、違った考え方や、私にとって新鮮なもので、消防団への入団は良いことだったと思っています。

また、数にモノを言わせてと見え

ば語弊がありますが、古い体制を少しずつ改善するように働きかけていきました。必要最低限の規律は必要ですが、自由裁量を大事にしなから、与えられた役割を全うすることが重要だと認識しました。その甲斐あって今では、「俺はいつ消防に入れるのか？」という、若い世代からの入団希望の声もあり、有難い状態となっています。

また私の地元では、地域性なのか、活動に理解を示してくれる家庭も多く、そんな苦も無く活動できています。更に私が勤務している会社は、消防団活動に理解を示してくれており、火災、自然災害、捜索活動の際には、特別有給休暇が適用されるという有難い環境です。自慢話で申し訳ありません。前置きが随分長くなってしまうました。

さて、気軽に入れる消防団にするにはどうあるべきか？消防団活動に興味を持ってもらうにはどうするべきか？人との交流に興味のない若者が増えてくるこのご時世ではあります。が、実はそこそこ若者はいるので

新しい従事方法を積極的に開発・導入し、変わらなければいけないのは、企業や我々消防団自身のあり方・考え方ではないかと思えます。それによって、消防団に入りたいたいと思ってもらう環境を整えることが重要だと考えます。

更には中学、高校という学生時代に地域の方々と交流する必要がありますのではないかと思います。小学生の頃は、親子共々年中行事があり、いろんなことに親しみますが、思春期を迎える中学、高校時代には、部活動が忙しくなるなど、社会活動から離れてしまっているように思いません。そこが改善すべき所なのではないでしょうか？

そういう私たちも、そろそろ父が退団した年代にさしかかろうとしています。我々が考えなければいけないことは、地域社会との繋がりを次の世代へ伝えていくことではないでしょうか。



今野 昭一

・大仙市消防団
班長
・勤続二十八年
・会社員

誠実かつ温厚な人柄であるとともに、所属分団では持ち前のユーモアを生かし、団員相互の融和を図るための企画を担当しています。

「おもしれれど消防団」

二年前、私は還暦を過ぎて無謀にも小型ポンプ操法に挑戦しました。この年は二年に一度の全国大会が開催される年でもあり、我が大曲支団第八分団からも全国大会を目指し私

を含め五人の精鋭が大曲地域消防訓練大会小型ポンプ操法の部へ出場することにしました。平均年齢六〇歳の名付けてG5軍団です。このG5軍団は、酒飲みの席で「孫にかっこいいどご見せてやるべ」「仲間を善光寺参りに連れていくべ」と話が盛り上がり、孫が同級生のジジ達で組んだチームでした。しかし、それがどんなに無謀だったか、私たちは後に知ることとなります。

早朝の練習。回を重ねると身体は悲鳴を上げ始めました。私がチームのみんなに「わりーな、みんなを巻き込んで」と声をかけると「なんもだ。頑張るべ」と言ってくれました。そのようにしながらG5軍団は足を引きずり、腰を曲げながらも練習に励みました。

大会当日・G5軍団の登場。ヘルメットを取らなければ、みんな若く見えます。私は指揮者としてG5軍団を一心不乱に指揮しました。そして、最後に私の「わかれ！」の号令。約一ヶ月練習したG5軍団の夏は終わりました。成績は決して良いものではなく全国大会出場の夢はないかもしれませんが、G5軍団の全員の顔はやりきった充実感に満ちあふれていました。そして、孫たちからの「ジジ、かっこよかったよ」の言葉がメダルよりも重く何よりも嬉しいものでした。

また、消防団活動とは別ですが、

消防団の仲間に助けられ感動した出来事がありました。それは静岡に住む私のいとこのことです。金欠病のいとこは、結婚式を挙げることはできないけれど、せめて入籍は亡き父親の出身地である大曲でしたいという願いを持っていました。この事を消防団の仲間に話したところ、仲間たちは「ヨシ、結婚式やつてやるべ」「火事は消しても、愛の炎は消されね」と即決まり、みんなで手分けしての結婚式をすることができました。「みんな、ありがとう。」その時、頬に熱いものが伝わってくるのがわかりました。困っている時はお互い助け合う団結力。これが、またえんだな消防団。

しかし、当然のことながら楽しいことばかりではありません。行方不明者の捜索。火災現場への出動。本当につらい場面でした。遺体発見に泣き崩れる家族。我が家が炎に包まれ絶叫する住人。私たち消防団は、消火活動を終えたあとは、ただその家族を慰め、一緒に悲しみを分かち合うことしかできませんでした。

そして、自然災害にも立ち向かいました。昨年、大曲の花火大会の二日前から大雨により桟敷席が水浸ししました。現場は誰もが開催は無理だと思ってしまう状況でした。関係者に混じり消防団が一丸となって清掃作業に取り組んで、そして、やり遂げ

ました。本当にみんなよく頑張ったと思います。消防団魂ここにありです。

少子高齢化が進むなか、私たちの分団も高齢化が進んでいます。また、私の住む地区でも顔を知らない人が増えてきています。そんな時、若い人が消防団に入ってくれば世代を越えて色んな付き合いができると思っています。私が入団した時、先輩たちからいろいろ教わったように、今度は私たちが若い人たちに伝える番です。

どうか、若い人たちが一緒に消防団やらねが。おもしれれど、消防団。

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防 ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備 火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551代
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

救急フォーラム二〇一八を開催

女性団員と機能別団員が活躍

平成三〇年九月九日(日)、秋田拠点センターアルヴェ一階きらめき広場において、「知ろう学ぼう 楽しもう! もしものために」をテーマに、救急フォーラム二〇一八(秋田県医師会主催)が開催されました。会場は家族

連れで賑わい救急出動や一九番通報などの体験ワークショップにたくさんの子供たちが参加しました。



消防からは救急救命士や救急隊員に加えて、女性消防団員と防災カレッジサポーター(大学生による機能別団員)が各ワークショップの運営に参加しました。応急手当指導員の資格をもつ女性団員や日本赤十字秋田看護大学の学生団員は「心肺蘇生法

とAEDの使用方法」や「日用品を使用した応急手当」を学ぶワークショップで、日頃の訓練や学業の成果を発揮、国際教養大学の学生団員は「英語で救命講習」のワークショップで、持ち前の語学力を生かして外国人との緊急時のコミュニケーションのとり方を子供たちに伝えていました。



今回のイベントでは、団員がそれぞれの特性や能力を活用してワークショップの運営に参画し、来場した皆さんの救急医療に対する理解と認識を深めると同時に、多くの子供たちに関心をもつてもらおうことができました。

(情報提供 秋田市支部)

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成30年		平成29年			同期比較	
	9月	累計	9月	累計	年計	9月	累計
建 物	12	116	10	130	166	2	-14
林 野	0	20	0	19	19	0	1
車 輛	4	31	3	24	30	1	7
その他	1	54	3	47	51	- 2	7
合 計	17	221	16	220	266	1	1
死者数	0	12	0	17	24	0	- 5
負傷者数	6	30	7	65	77	- 1	-35

モリタ消防ポンプ シバウラポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52)6494
(52)6361

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

株式会社 高 義 商 会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183) (42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183) (73)2588

株式会社 タカギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182) (32)3880
FAX (0182) (32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース
トーハツポンプ | シバウラポンプ
各種消防機械器具 | 各種消火器
消防設備保守点検

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp